

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただきます。

テレビ静岡 平成28年6月度 番組審議会概要

平成28年6月16日（木）

14時00分～15時00分

テレビ静岡本社 3階会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁 齋藤 照安 花森 崇行 五十住和樹

— 議 題 —

番組名 「FNSドキュメンタリー大賞 参加作品
死刑囚と姉 —袴田事件50年—」

放送日時 放送日時 平成28年5月29日（日）
13時00分～13時55分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

静岡市清水区で起きた強盗殺人放火事件、いわゆる「袴田事件」の発生から半世紀が経った。冤罪を訴えていた袴田巖元被告は、裁判のやり直しが認められ、2年前に釈放されたが、収監中に拘禁症という重い精神的な病気を患っていた。

番組では、当時の高圧的な捜査方法、社会や司法制度にあった問題点、取り戻せない時間などについて、元被告に寄り添い、事件直後から無実を訴え続けてきた、姉の秀子さんとの暮らしを通して考える。

— 審議概要 —

- ◎事件を風化させないために、テレビ局として意義のある番組だった。
- ◎事件を知らない人々に、リアリティーを持って伝えられたのは良いこと。
- ◎冤罪や死刑、警察の取り調べなど、この番組を見たことで関心が高まった。
- ◎袴田元被告と姉の現在の生活を、とても自然な感じで撮影できていた。
- ◎地元で起きた事件を改めて考える機会として観て、涙が出た。テレビの「人を動かす力」を改めて実感した。
- ◎結果ありきの強引な捜査で自供を引き出した上、物証が乏しくても有罪（死刑）となってしまう当時の裁判の理不尽さを教えてくれた。
- ◎女性のナレーションは、声のトーンが番組にとても合ってよかった。
- ◎全体的に淡々を進む中、含みを持たせた問いかけが随所にあり、どのように解釈するのか、見る側に考えさせるよくできた番組だった。
- ◎袴田元被告の姉のことを、過去から現在までの映像をとらえていて、彼女の人生に関わっていることがストレートに伝わった。
- ◎姉の口を借りて、「人生とは何か？自由とは何か？」与えられた状況を受け入れて生きてゆかなければならない袴田元被告に起きた悲劇を伝える重みのある番組だった。
- ◎事件から50年で新機軸もなく、放送局がなぜ今この話題を伝えるのか、もっとはつきりさせた方が良い。
- ◎内容は良いのに、タイトルが重すぎて、視聴層が狭まってしまったのでは。
- ◎構成上、時間軸が何度か飛んでしまい、判りづらかった。
- ◎「拘禁症」の説明について、“不足だった”、“説明がない方がより恐ろしさが強調される”と意見が分かれた。
- ◎エンドロールが流れた後、「再び獄中に戻される可能性は消えていない」とナレーションが入るのは、“インパクトがあって、ズシンと来た”、“消化不良で、具体的な表現をした方が良い”などと意見が分かれた。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りで参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は平成28年7月7日（木）の予定。